

〈ご検討用資料〉

若手社員対象研修

ご提案書

ホワイトボード・ミーティング®をメインとした、ファシリテーター育成研修
+ アクティブ・ブック・ダイアログ®

2024年1月25日

ご提案にあたって

多様性を重んじる現代社会において、一人ひとりの意見を尊重しながらも、チームとしての意見をまとめ、方向付けるファシリテーターは、どの企業においても必要な戦略的人材です。メンバーの隠れた力を引き出し、合意形成へと導くファシリテーションは、近い将来にリーダーとしての役割を求められる若手社員にとって、マネジメント能力を発揮していただくためにも不可欠なビジネススキルのひとつです。

ホワイトボード・ミーティング®は2003年に株式会社ひとまちのちよんせいこ氏によって開発された話し合いのためのファシリテーションスキルです。現在ではビジネスの場にとどまらず、教育・医療・福祉などの幅広い分野で導入されています。ひとくちにファシリテーションと言っても、これといった定義がなく、「会議やワークショップを進行する人」というイメージですが、ホワイトボード・ミーティング®はこれを体系化し、誰でもファシリテーターとして活躍できるメソッドです。

参加者が主体的に学ぶ本講座は、ワークショップ形式で楽しい模擬会議を通じて、実践的にホワイトボード・ミーティング®のメソッドを習得します。メンバーとのコミュニケーションを通じて相互理解を深め、チームビルディングにも貢献いたします。

本プログラムは、将来を嘱望された若手社員を対象とした、講座終了後からすぐに使えるファシリテーション実践研修としてプログラムされています

ご提案の全体像

1日目

I-①
ホワイトボード・ミーティング®(P4参照)
で学ぶファシリテーションBasic講座

+

I-②
アクティブ・ブック・ダイアログ® (P6参照)
で深めるファシリテーションBasic

2日目

II-①
ホワイトボード・ミーティング®(P4参照)
で学ぶファシリテーションAdvance講座

+

II-②
アクティブ・ブック・ダイアログ® (P6参照)
で深めるファシリテーションAdvance

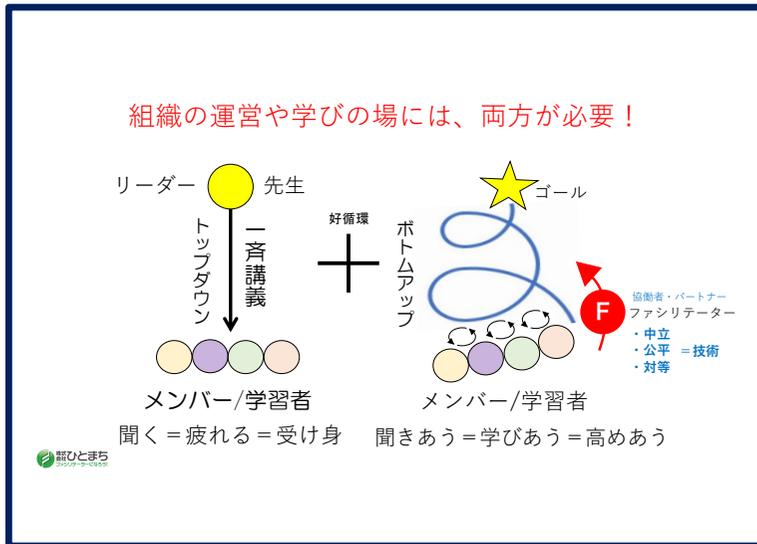
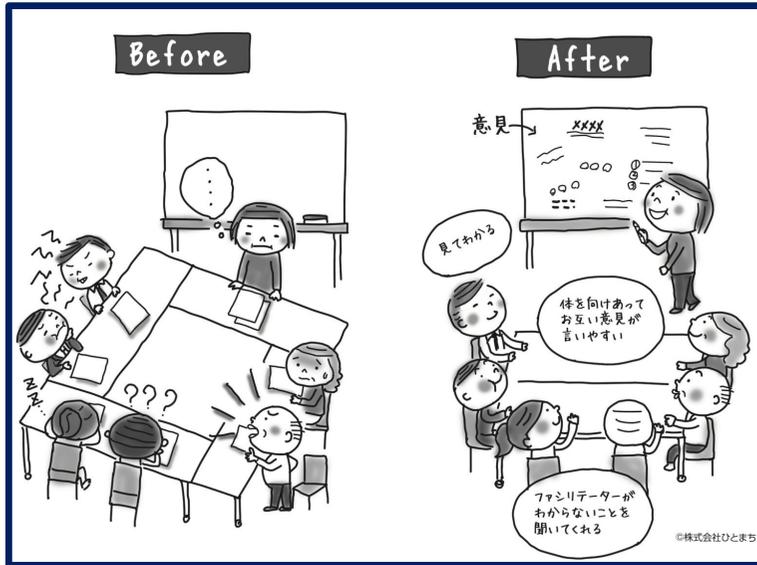
ホワイトボード・ミーティング®について (ホワイトボード・ミーティング®ベーシックテキストより抜粋)

会議室のホワイトボードを活用して進める話し合いの技術です。ファシリテーターが参加者の意見をホワイトボードに書くので、何を話し合っているのかが明確で、効率的、効果的に会議を進められます。

特徴

会議で人と組織が成長します！

- 1 ホワイトボードに意見を可視化しながら進めます。
- 2 進行役をファシリテーター、参加者をサイドワーカーと呼びます。
- 3 ホワイトボード・ミーティング®質問の技カードを使ってオープン・クエスチョンで深い情報共有を進めます。(第4階層の情景共有を目指します)
- 4 話し合いに「発散→収束→活用」のプロセスを作り、色を分けて書きます。
発散(黒)：意見をドンドン出し、オープン・クエスチョンで深めます。(情報共有)
収束(赤)：軸を決めて、出た意見を方向づけます。(意見の構造化)
活用(青)：具体的な行動や活動計画を決めます。(行動計画・結論)
- 5 6つの会議フレームを組み合わせて、合意形成や課題解決をはかります。
ベーシック(3級)：定例進捗会議・役割分担会議・企画会議
アドバンス(2級)：情報共有会議・課題解決会議
マスター(1級)：ホワイトボードケース会議(コンフリクトマネジメント会議)



特徴 04 話し合いに「発散→収束→活用」のプロセスを作り、色をわけて書きます。

発散 (情報共有)
意見をドンドン出し、オープン・クエスチョンで深めます

収束 (意見の構造化)
出た意見を方向づけます

活用 (行動計画・結論)
具体的な行動や活動計画を決めます



アクティブ・ブック・ダイアログ®について (アクティブ・ブック・ダイアログ®テキストより抜粋)

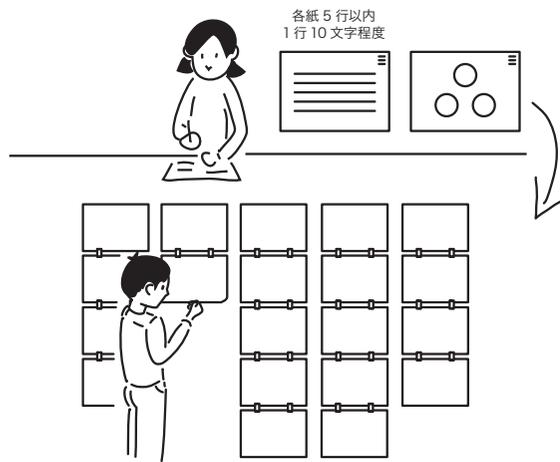
2013年に竹之内壮太郎氏が開発した読書会の手法。1冊の本を分担して読み込み、サマリー（要約文）を作成します。そしてそのサマリーを頭から順にリレープレゼン。その後にパワフルな問いをベースに参加者で対話（ダイアログ）をして、深めます。互いの読書観点の違いが面白く、相互理解が深まります。繰り返し実施することで、要約力・プレゼン力を磨くことができます。

8つのメリット

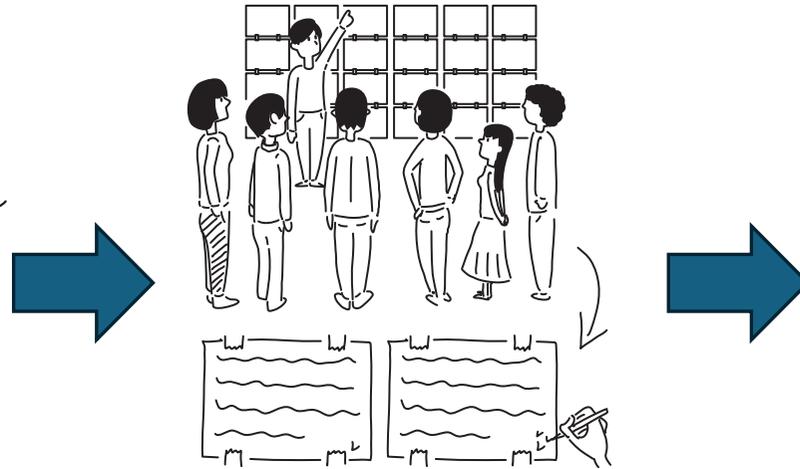
- 1 短時間で読める → 難解な本でも協力して短時間で読めます。
- 2 サマリーが残る → 復習したり第三者に説明しやすくなる。一人で読む時のモチベーションになる。
- 3 記憶の定着 → インプットとアウトプットをすることで、記憶に定着しやすい。
- 4 深い気づきと創発 → 対話をすることで深い気づきが生まれる。
- 5 個人の多面的成長 → 集中力・要約力・プレゼン力・コミュニケーション力などが同時に磨けます。
- 6 共通言語 → チームで行うことで、同じレベルの知識を共有し、共通言語・共通基盤を作れます。
- 7 コミュニティができる → 仲間と一緒に協力して本理解する体験から、一体感が生まれます。
- 8 なにより楽しい！ → 多数の人の感想を聞き、対話をするのでとても楽しい！

本研修では、マネジメント系の本を使用し、ファシリテーション技術を深めるために取り入れます。

2-1. サマライズ (30~60分)

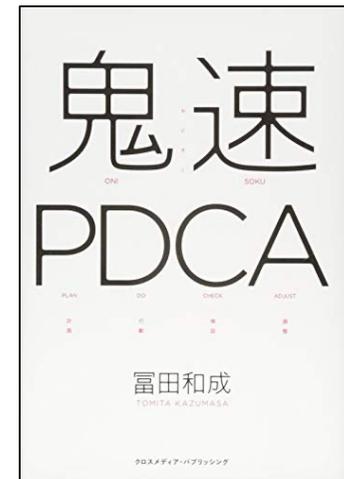
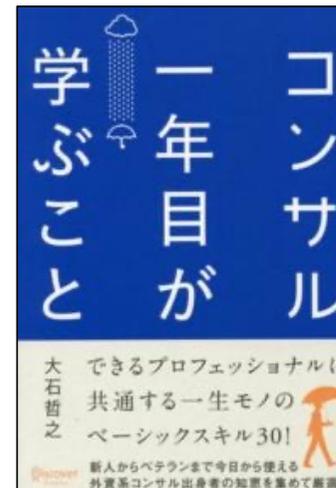
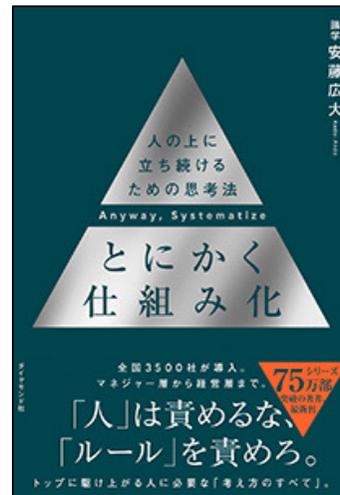
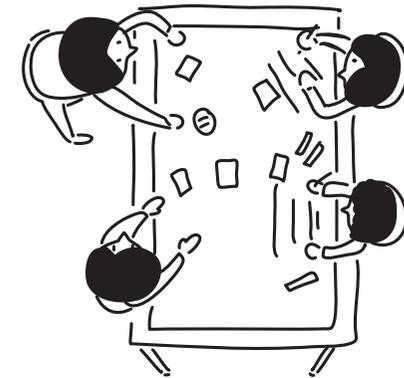


2-2. リレー・プレゼン (2分×人数)



2-3. ダイアログ (30~60分)

(気づき・創発を生み出す対話)



1日目研修プラン

時間	セッション	進め方
9:00-9:15	オリエンテーション	講師自己紹介/ミニホワイトボード・コミュニケーション
9:15-9:30	基本的な考え方①/会議ファシリテーション度チェック	エンパワメント/心の体力/トップダウンとボトムアップ
9:30-10:00	ホワイトボード・ミーティング®の特徴とオープン・クエスチョン/私の構成要素	オープン・クエスチョンで深い情景共有を目指す。 ※適宜休憩
10:15-10:30	ホワイトボードに慣れる	描き方の練習・意見の構造化。
10:30-11:15	模擬会議① 定例進捗会議	基礎となる会議フレーム。One on Oneにも使える。
11:15-12:00	模擬会議② 役割分担会議	チーム内の経験知と暗黙知を標準化
12:00-13:00	昼食休憩	
13:00-14:00	模擬会議③ 企画会議	つぶやき、愚痴や不満も宝物の意見に変身する。
14:00-14:30	アクティブ・ブック。ダイアログ®オリエンテーション	未来型読書法アクティブ・ブック。ダイアログ®進め方の説明
14:30-15:00	サマリー作成	本と向き合う集中の時間 ※適宜休憩
15:00-16:00	リレープレゼン ギャラリーウォーク	1人2分でプレゼンを順に行う/メンバーの意見に「いいね！」
16:00-16:45	ダイアログ・発表	「企画会議」の要領でチームの意見をまとめる。
16:45-17:00	まとめ/振り返り/質疑応答	学びを明日への仕事に活かす。

2日目研修プラン

時間	セッション	進め方
9:00-9:15	オリエンテーション	講師自己紹介/私を語る10の言葉
9:15-9:45	基本的な考え方②ファシリテーション6つの技術	ファシリテーターとしての関わり方を学ぶ
9:45-10:00	模擬会議復習・定例進捗会議	現在の仕事の状況や仕事で大切にしていることを共有する。
10:00-11:00	模擬会議応用 プロジェクト・スタート会議 (企画会議+役割分担会議)	プロジェクトのキックオフや中間振り返りに使える会議フレーム ※適宜休憩
11:00-12:00	模擬会議④ 情報共有会議	メンバーひとり一人が持つ情報を棚卸しすることで、全体状況や進捗具合を把握する。
12:00-13:00	昼食休憩	
13:00-13:30	発散のクオリティスケール	発散のクオリティを意識することで、話し合いの内容をより場の求めるものにする。
13:30-14:15	模擬会議⑤ 課題解決会議	悩みやトラブル、困ったことが起きた時に問題改善・解決を考える会議フレーム。
14:30-16:00	アクティブ・ブック・ダイアログ®	サマリー作成～プレゼンまで1日目よりも少し負荷を高めて行う。 ※適宜休憩
16:00-16:45	ダイアログ・発表	「企画会議」の要領でチームの意見をまとめる。
16:45-17:00	まとめ/振り返り/質疑応答	講師講評・アンケート

講師プロフィール

野坂匡樹(のさかまさき)ブックライフ・ファシリテーター®

- 1971年 大阪府生まれ
- 1991年 株式会社旭屋書店入社
- 1999年 株式会社米国旭屋書店ロサンゼルス店勤務
- 2002年 米国同時多発テロの影響を受けて早期帰国
- 2008年 京都店勤務・桃山店店長・本部本店勤務の後退職
- 2009年 株式会社丸善ジュンク堂書店難波店入社
- 2013年 ちよんせいこ氏が提唱するホワイトボード・ミーティング®を学び始め、ファシリテーションの技術を磨く
- 2014年 教育機関・出版業界で研修を始める。
- 2018年 ツクヨミプランニングを設立
- 2019年 大阪府豊中市において「絵本屋coccole」をプロデュース
- 2020年 大阪府豊中市において調剤薬局と書店の複合店舗「ページ薬局」をプロデュース
- 2023年 愛知県名古屋市「わかさ生活書店」のリニューアルプロジェクトに参画。

